

食を取り巻く環境

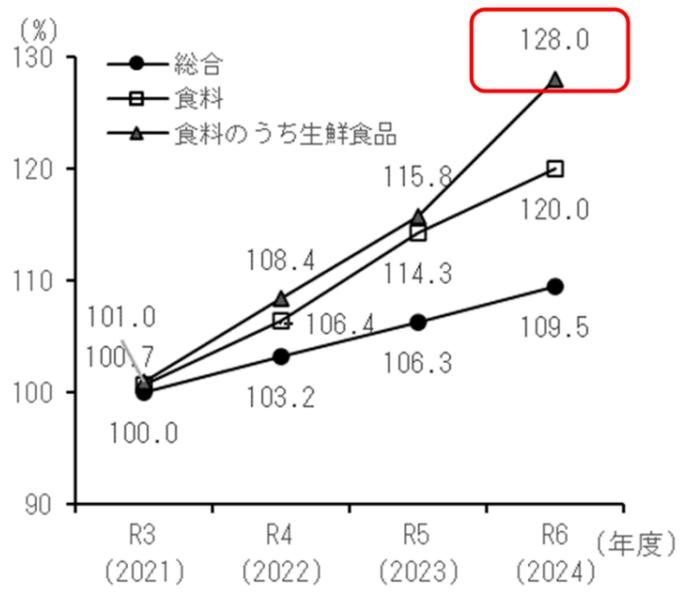


図1 消費者物価指数の推移 (全国)
(2020年基準消費者物価指数)

- 物価は年々高騰
- 食料、とくに生鮮食品の高騰が顕著

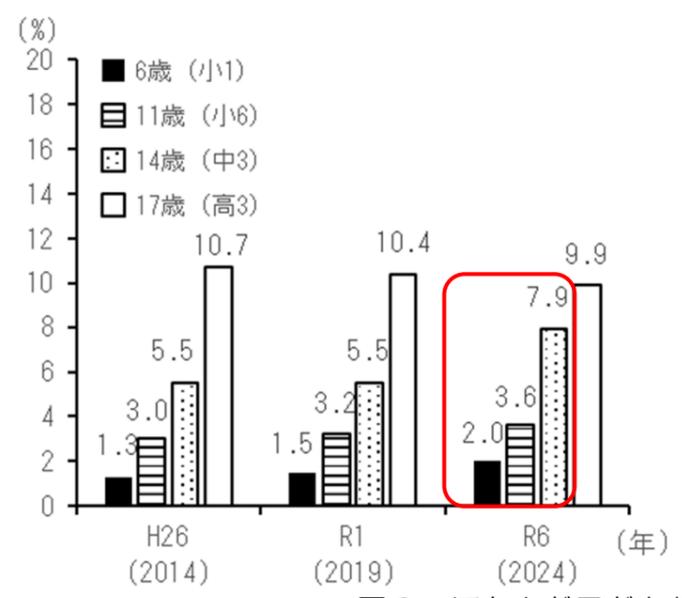


図2 ほとんど子どもだけで夕食をとる児童・生徒の推移 (左:男子、右:女子)
(山梨県新体カテスト・健康実態調査報告書)

- 年齢が上がるにつれて増加
- 10年前より悪化している年齢が多い

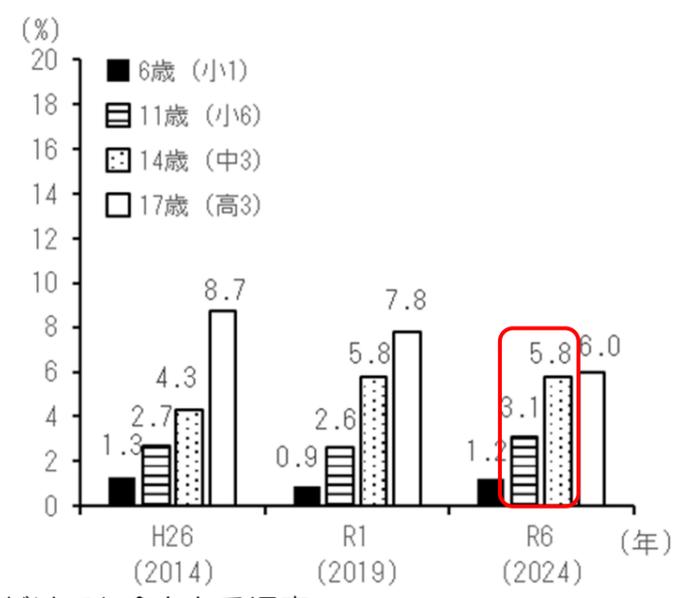


図4 朝食を毎日食べない児童・生徒の推移
(山梨県新体カテスト・健康実態調査報告書)

- いずれの年齢でも10年前より悪化
- とくに年齢が上がるにつれて欠食率が上昇

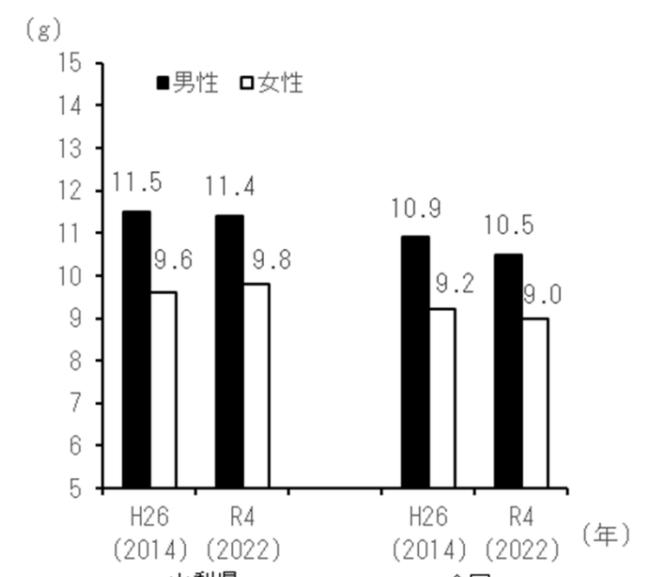


図5 食塩摂取量の推移 (20歳以上)
(山梨県県民栄養調査、国民健康・栄養調査)

- 男女とも8年前とほぼ同水準のまま
- 依然として全国平均より高い

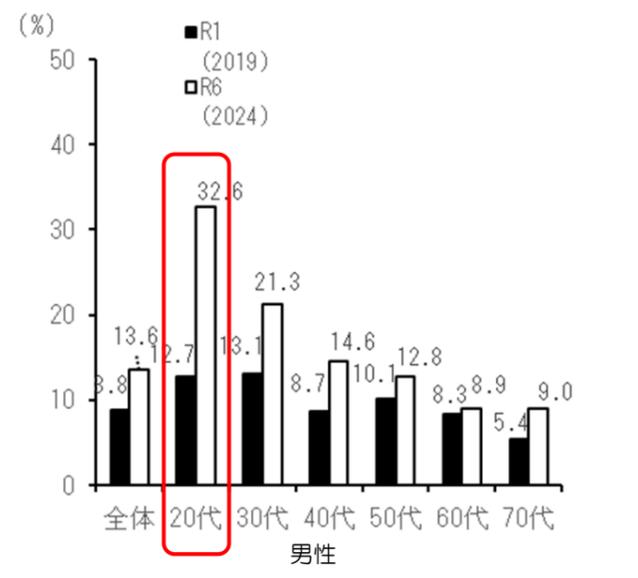


図3 主食・主菜・副菜を揃えて食べない人の割合 (全国)
※1日2回以上食べることはほとんどない人
(食育に関する意識調査 (農林水産省))

- いずれの年代でも、主食・主菜・副菜を揃えた食事を食べていない人が増加
- とくに、20代男性やこれまで実践率が高かった30~60代女性での状況悪化が顕著

県政アンケート結果

実施時期：R6年12月
モニター数：400名

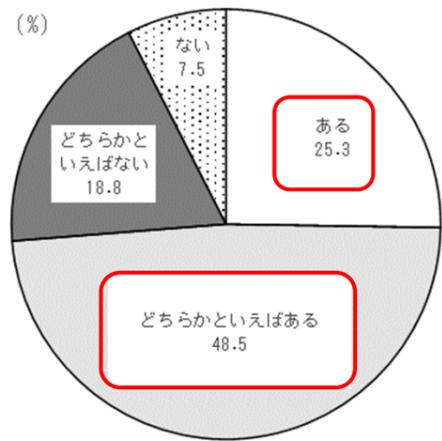


図1 食育への関心

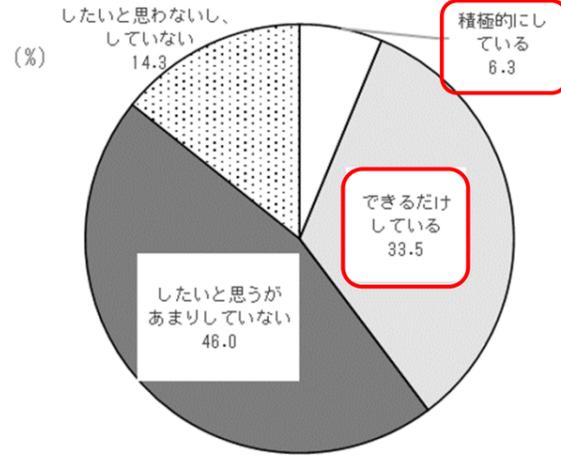


図2 食育活動の実践度

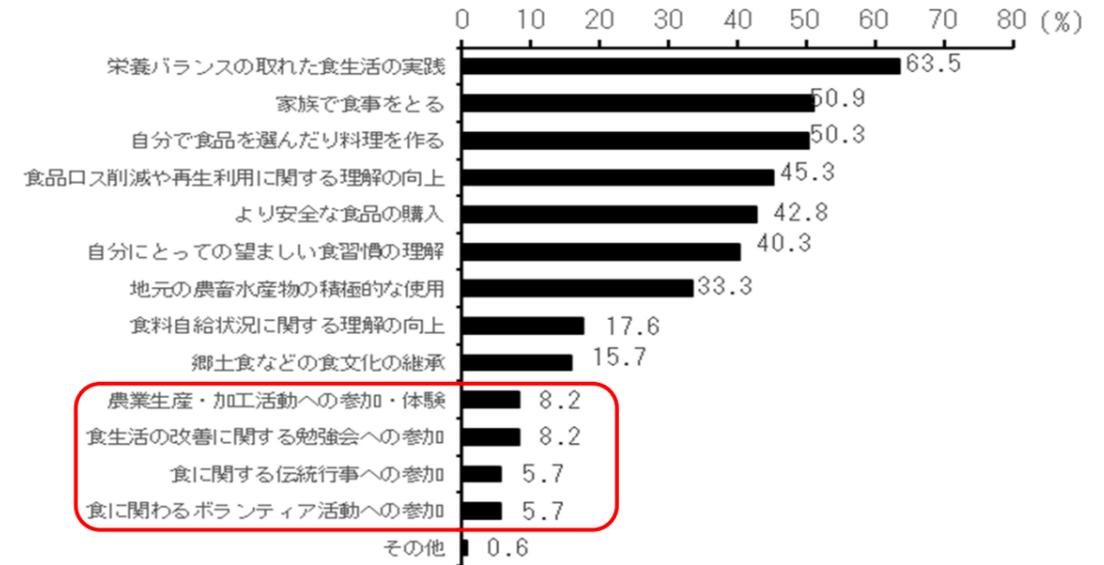


図3 実践している食育活動の内容

- 約7割以上が関心を持っているが、実践できている人は約4割
- 関心度、実践度ともに低下 (R1年度結果 関心度85.3%、実践度49.3%)

- 「栄養バランスの取れた食生活」や「家族で食事をとる」の割合が高い
- 「農作業体験」や「勉強会やボランティア活動への参加」の割合は低い

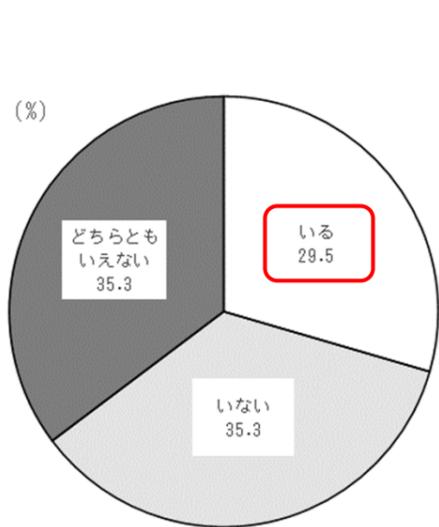


図4 郷土食等の継承



図5 郷土食等を伝えていくために必要なこと

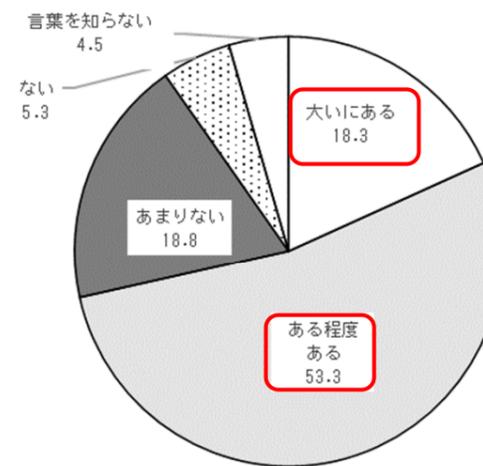


図6 地産地消への興味

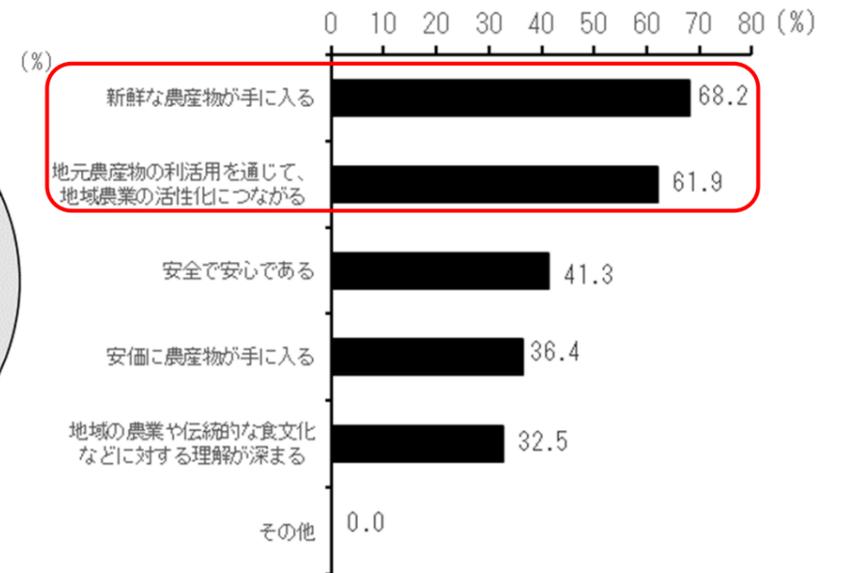


図7 地産地消の魅力

- 郷土食等を継承している人は約3割 (R1年度結果 53.0%)
- 継承には、家庭を中心に、学校や地域で教わる必要がある

- 地産地消に興味のある人は約7割 (R1年度結果 88.0%)
- 「新鮮な農産物が手に入ること」、「地域農業の活性化につながること」に魅力を感じる人が多い

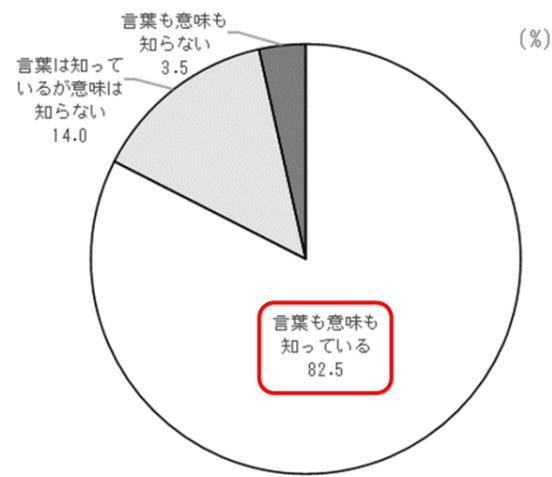


図8 「食品ロス」の認知度

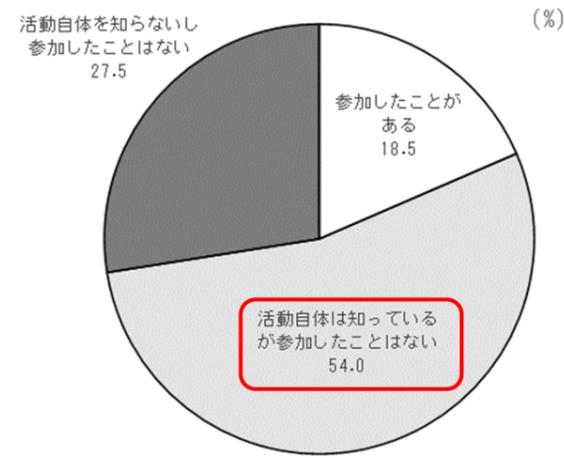


図9 フードドライブ活動の実践度

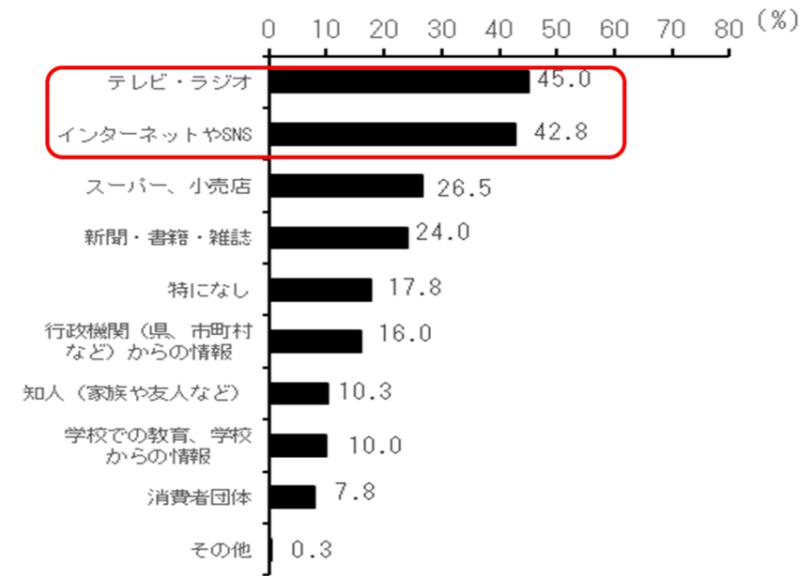


図10 食生活や食品ロスに関する情報を得る手段

- 「食品ロス」の認知している人は約8割（R2年度結果 81.4%）
- フードドライブ活動は広がっているものの、活動は知っているが参加したことはない人は約半数（R2年度結果 参加したことはない 91.7%）

- 「テレビ・ラジオ」、「インターネットやSNS」を柱に、様々な媒体から入手（R2年度結果 テレビ91.4%、新聞46.5%）